

J-STAGE データ品質向上へのご協力をお願い

平成 27 年 7 月 15 日

国立研究開発法人科学技術振興機構
知識基盤情報部長 水野充

拝啓 時下ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

J-STAGE は日本の研究成果の国際発信・流通促進を目的として、平成 11 年にサービスを開始し、発行機関様と JST が共同で運営するプラットフォームとして、電子化推進と国内外の外部サービスとの連携を進めてまいりました。その結果、現在 1700 誌以上ものジャーナルを登載し、閲覧数も順調に増加しております。

一方、世界的には、学術情報発信をとりまく状況は刻々と変化し、競争が激しく行われております。その中で日本の研究成果の存在感を高めるために、J-STAGE においては国際発信・流通促進をさらに強化する目的で、外部サービスの規格にあったデータを幅広く流通させ海外からのアクセス機会を拡大させることが極めて重要と考えております。しかしながら、J-STAGE のデータ登載時のチェック機能は、サービス開始当初にまずは電子化の推進を優先したことから、J-STAGE 上で論文を公開するための最低限のものとなっており、この対処が喫緊の課題となっております。

現在、J-STAGE の論文情報が国内外からアクセスされることを目的として、ジャパンリンクセンターを介して永続的アクセスを確保する DOI の登録を行い、PubMed、CrossRef 等の海外の主要な外部サービスへ DOI とメタデータを提供するシステムを運用しております。

今後、この一連のシステムにおける、J-STAGE へのデータ登載、DOI 登録、外部サービスとの連携というデータの流れがよりスムーズに実施されるためには、データ品質の向上が必須です。そのため、今後は国内外の外部サービスにエラーなくデータが流れるように、J-STAGE のデータ登載時の入力チェックを厳密に行い、発行機関様が J-STAGE のデータ登載時点で誤入力に気付けるような機能の開発を進めており、本年度中の実装を予定しております。入力チェックの具体的な内容については随時、J-STAGE 上での情報公開を行います。

発行刊行物が外部サービスの採択誌等の場合は、上記のデータチェックを活用した正確なデータ登載が必要となります。また、外部サービス連携に必要なデータ入力を満たさない記事については、連携ができず対象外となることがありますのでご了承ください。

J-STAGE は、発行機関の皆様と JST の双方の協力のもとで成り立っております。日本の研究成果情報の発信強化という目的を共有し、ともに努力を行っていただければ幸甚に存じます。何卒よろしくお願い申し上げます。

敬具